

令和 7 年度 第 3 回守口市地球温暖化対策実行計画協議会 会議録

会議名称	令和 7 年度第 3 回守口市地球温暖化対策実行計画協議会
開催日時	令和 8 年 1 月 13 日（火） 午後 2 時から
開催場所	守口市役所 6 階 教育委員会会議室
出席者	守口市地球温暖化対策実行計画協議会委員 10 名 （うち 1 名はオンライン出席） 事務局 6 名 支援事業者 3 名
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 案件 （1）守口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案について （2）意見交換 4 その他 5 閉会
傍聴者	1 名
会議内容	
【1～2】略 【3 案件】 （1）守口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案について ＜資料に沿って事務局から計画前半を説明＞ 委 員：「プラスチックのごみの日」に回収されるプラスチックごみがリサイクルされているのか、それとも焼却されているのか、また、実際に適切に再生できているのか。 事 務 局：容器プラスチックを分別収集し、容器リサイクル協会に送りリサイクル処理を委託しているが、回収品が再びプラスチック製品になる例は少なく、多くの自治体では製鉄所でコークスに代わる還元剤として利用されている。国内の鉄需要などの変動により今後処理方法が変わる可能性がある。 委 員：全国にはさらに細かく分別する自治体もあるが、守口市では現状「紙」「普通ごみ（燃やすごみ）」「プラスチック」といった区分で収集している。紙ごみはどのように処理・再生されているのか。 事 務 局：守口市で回収した紙は古紙問屋に搬出し、再生パルプとして再商品化されている。ビン・缶・ペットボトルなどの資源ごみについては、缶は再生されており、	

ペットボトルは戸別収集でラベルや中身がきれいな状態で収集されるため、ペットボトルや再生繊維（フリース等）にリサイクルされることが多い。

委員：全国の市町村に比べて進んでるということか。

事務局：本市のリサイクル率は本市と類似規模の自治体と比較すると標準的だが、ごみの量は類似団体と比較すると少ない。ごみの量全体も少なく、ほかのリサイクルも進んでると考えている。

委員：21 ページに記載がある再生可能エネルギー導入ポテンシャル量でも、小さいということか。

事務局：このポテンシャルは環境省のREPOSというシステムから示されたもので、市域の使用する電力を考えると全く足りていないという状況。

委員：再生可能エネルギーのポテンシャルは1 割程度と少なく、ポテンシャルを全部活用しても不足するため、外から調達するということか。

事務局：お見込みのとおり。ポテンシャルを全て使い、再生可能エネルギーを導入しても市域での電力量には足らないため、再エネ電力という形で他自治体から調達する必要がある。

委員：18 ページの温室効果ガスの排出量について。温室効果ガスの排出量が、電気の二酸化炭素排出係数の増減の影響により増減しているのか、排出係数と関連付け記載したほうがよいのではないか。

事務局：書き方について検討する。

委員：計画の策定後、どのような方法で広報するのか。

事務局：市のホームページ等での周知のほか、6 月は環境月間であるため、来年度6 月の広報誌に掲載予定。

委員：広報誌にコラムのようなもので温暖化について掲載し、市民の目に触れる機会を増やしてほしい。

事務局：6 月の広報誌に、計画を策定した旨を周知する予定。市のSNSでも周知する予定。

委員：継続的に、普通にできる、生活の中でできることをコラムのような形式での掲載を検討してほしい。

事務局：現在、広報誌に「レッツくりあ」という4 コマ漫画を毎月掲載しており、今後、温暖化に関するものの掲載を検討する。

委員：24 ページの守口市の将来像の事業所の部分で、「可能な限り電化やメタネーショ

ンガスの利用とともに」という相反する記載があり、また、「メタネーションガス」という表現についても疑義がある。

＜資料に沿って事務局から計画後半を説明＞

委員：27 ページの目標設定の大阪府の計画の記載について補足する。

事務局から、目標設定の考え方の大阪府の記載について削除すると説明があった。大阪府は国の目標に2%上乗せした目標設定をした。各自治体には国の目標、計画に整合した計画をつくることが求められているため、守口市が国に合わせた目標値を設定すると、国の目標値を上回る大阪府の目標値と整合がとれず説明しにくいということや、大阪府としても全ての自治体が国の目標値に2%上乗せした目標設定をするべきと考えていないため、事務局と相談し、目標設定の考え方において、大阪府の記載を削除することになった。

委員：市の広報は大事だと考えているが、市民参加型のものは行うのか。

事務局：環境に関するイベントや講座、そういったものを催す際には参加していただき、環境について学んでいただきたいと考えており、イベント等の拡充も行っていきたいと考えているため、今後いろんな方面から参加できるものの実施を検討する。

会長：これまでは、どのような形で実施してきたのか。

事務局：民間事業者と協働で環境絵画展を開催したり、ランタン作り工作教室を開催している。今後も事業者と連携して事業を実施していきたい。

委員：37 ページや 40 ページの家庭でのいろいろな省エネの取組について。家庭でのCO₂を一番多く排出しているものは給湯や暖房である。電気だけでなく、灯油等いろいろなものがあるため、そのような取組を加えても良いと考える。

また、42 ページと 43 ページでエネファーム等と高効率給湯の記載があるが、高効率給湯器、エネファーム等の順番にすると全体から個別という流れになり、分かりやすいのではないかと。また、個別の機器は、コラム 15 に記載のとおり、大きく3つの機器を導入すると省エネ性能、環境にいいものがあるため、その詳細も掲載すると、どのようなメリットがあるか分かるため、掲載しても良いと思う。

事務局：40 ページの家庭でできる取組のコラムについて内容を精査する。省エネの取組コラムの順番等についても精査する。

委員：51 ページの吸収源対策で緑地の保全と記載してあるが、今までの保全という
と、草木を少なくした自然ではないような、公園がきれいに見えるような公園づ
くりがされている気がするが、例えば部分的に自然を残し、昆虫や鳥等が集まっ
てくるようなところを残していく、今までと違う緑地づくりを考えてほしい。

事務局：道路や公園の部署や都市整備の部署等の関係機関と連携しながら、緑化の活動に
について協議していきたい。

委員：29 ページ表 5-1 について。割合を整数で表記すると見やすくなると思う。表中
の「2013 年度からの削減量」は他の項目と種類が違うため、不要であれば削除
しても良いと思う。

また、廃棄物分野とその他について、国の削減率目標値と 2040 年度の市の削減
率目標値に乖離がある理由は何か。

支援事業者：2040 年度の目標値は、2030 年度目標と 2050 年度目標を結んだ直線状の値として
いる。2030 年度の目標値は、BAU の推計等から削減の見込み量を算出し、そ
れを 2013 年度と比較した値である。そのため、2040 年度の目標値は積み上げた
結果となっている。

事務局：今の説明について補足する。廃棄物について、BAU だけでは判断できないところ
があるため精査する。また、全体の割合の中でいうと廃棄物、その他部門は、
全体の比率に対し非常に少なく、生活に密着しており技術的な革新も期待できな
い部分もあるため、こちらについても精査する。

委員：コラムの位置等を工夫すればさらに見やすくなると思う。知識がない人が読むと
言葉の意味が分からないものがあるため、見直していただきたい。

また、概要版を 4 ページで作成すると説明があったが、本計画は内容に量感があ
り、4 ページにまとめると読みにくくなると思うが、どのような工夫をするの
か。

事務局：基本目標の部分が重要であるため、全体ではなく、重要なところに焦点を当てた
形式を考えている。

委員：門真市は、かどまエコフェスティバルのようなイベントで周知をしており、市民
団体と企業とボランティアというのが一体となっているので、そういう形のイベ
ント等で周知をすると良いと考える。

委員：第 6 章で、市のキャラクターの吹き出しにコメントが記載されているが、アンケ
ート結果を記載しているのみの箇所があるため、市の考えを記載するとより良い

と考える。

また、周知・啓発について、環境のイベントでの周知も良い取組だが、例えば健康やお得など、環境とは違う切り口で周知・啓発を行うと良いと考える。

委員：パリ協定以降も、地球温暖化は進行しており、個人が行うことも大切だが、世界に対して発信できたらいいと考える。

委員：再生可能エネルギーの利用促進について、大手企業は、外部からの目や投資家の目があるため、エネルギー供給側も含め、再エネの利用は促進されると思うが、中小企業は再エネへの切替えが困難だと考えるため、再エネを推進するにあたり、中小企業への取組をすると良いと考える。

また、42 ページ、43 ページのエネファームについて、エネファームに種類があるため、関西で販売されているものの記載にするとよいと考える。また、値段についても関西の記載にするとよいと考える。

事務局：コラムを差し替えるにあたり良い資料等があれば提供いただきたい。

【4 その他】

＜次回の協議会について事務局から案内＞

【5 閉会】略